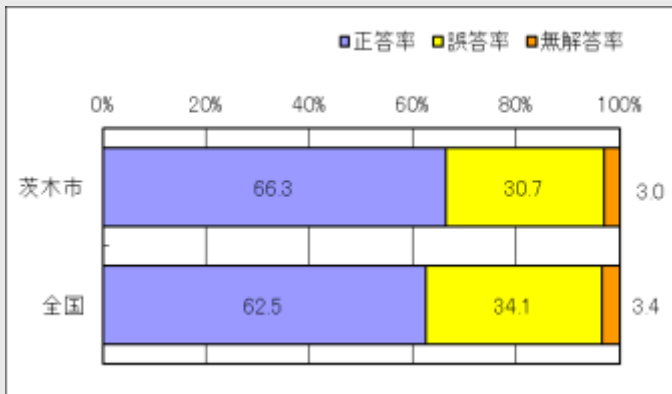


正答率比較

平均正答率は、全国を3.8ポイント上回った

令和5年度 小学校算数 正答率等比較

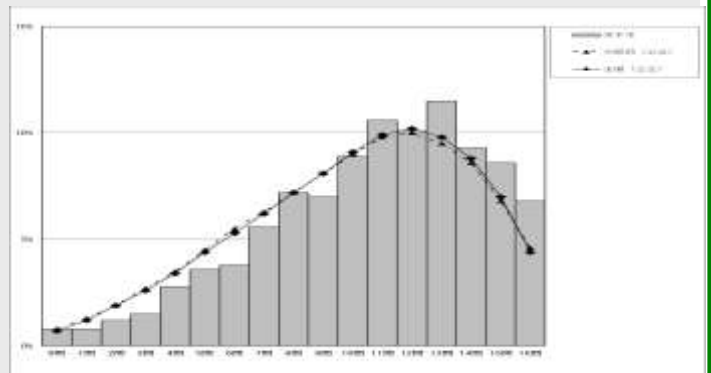


- ◆ 全国の平均正答率が 62.5%であるのに対し、茨木市では 66.3%で、全国を 3.8 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 3.4 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.4 ポイント低い。

正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

令和5年度 小学校算数 正答数分布グラフ



- ◆ 全国は 12 問、茨木市は 13 問正解の児童の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~6問正解)の児童の割合は 14.5%である。(内 20%以下(0~3問正解)の児童の割合は 4.3%)
- ◆ 正答率 80%以上(13~16問正解)の児童の割合は 36.3%である。

領域・観点・問題形式別

令和5年度 小学校算数 レーダーチャート



「図形」「変化と関係」で良好である。

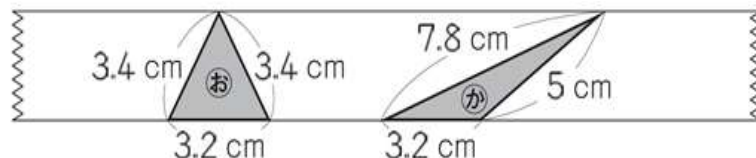
良好な項目	より改善したい項目
図形 変化と関係	記述式

- ◆ どの項目も平均正答率が全国平均よりも3ポイント以上高く、良好な結果となった。特に「図形」については、全国平均よりも5ポイント以上高かった。「記述式」の問題については、全国平均より高いものの、正答率は 51.5%に留まった。

課題があった設問

○ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる (正答率 26.5%)

② (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊟と㊠の2つの三角形をつくります。



上の㊟と㊠の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1 から4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊟の面積のほうが大きい。
- 2 ㊠の面積のほうが大きい。
- 3 ㊟と㊠の面積は等しい。
- 4 ㊟と㊠の面積は、このままでは比べることができない。

正答例 【番号】3 【わけ】(例)三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊟と㊠の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊟と㊠の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊟と㊠の面積は等しいです。